

## ビキサロマー（キックリン）の臨床有用性と問題

医療法人衆和会 長崎腎病院

○塚原華乃子, 岩井由紀子, 久保純子, 丸山祐子, 矢野未来, 江藤りか,  
宮崎健一, 李 嘉明, 原田孝司, 船越 哲

### 【背景】

ビキサロマーは、カルシウム非含有・非金属リン吸着剤として、本年 6 月に発売された。既に発売となっていた、セベラマー塩酸塩に比べて腹満・便秘の副作用が軽度であり、炭酸ランタン塩酸塩と異なり重金属を含まないことから、有効性および安全性が期待される。一方、リン吸着剤で唯一のカプセル剤型であり、アドヒアランスの問題も残る。

### 【目的】

セベラマー塩酸塩からビキサロマーに切り替えた際の、血清データや服用法など患者の受け入れの変化について検討する。

### 【対象・方法】

当院外来維持透析患者で、セベラマーを内服中の患者 10 名を対象とし、ビキサロマーへ移行前後の、便秘などの副作用と血清データ、またそれぞれのアドヒアランスについて検討した。

### 【結果】

セベラマーからビキサロマーに変更後、血清リン値は  $5.8 \pm 2.3 \text{mg/dL}$  から  $5.2 \pm 2.6 \text{mg/dL}$  に減少する傾向にあったが有意差はなかった。腹満・便秘も減少する傾向がみられた。

### 【考察】

ビキサロマーはセベラマーに比較して腹満便秘が少なく、アドヒアランスは良好であった。